

宮本住建の大工たちが実際に使っている大工道具



鑿(ノミ)

木材の穴掘りや削り加工に使用。さまざまな種類がある丸ノミ・平ノミなど削る対象により使い分け、使用時はゲンノウとセットでたたいて使われる



墨壺(スミツボ)

墨汁で直線を書いたり、木材に番号を書いたりする道具。現代のペンのような役割を果たす。棟梁にしか持つことが許されない

墨刺し(スミサシ)
竹でできた筆。墨汁をつけて木材の墨付けを行う

鋸切り(ソノカサ)
木材を切断する。ノコギリにもいろいろ種類があり、木目に沿って切断する「縦挽き」、木目に直行するように切断する「横挽き」がある

曲尺(サシガネ)

これ一本で直角な線を描いたり角度を計算したり、縮尺を計算したりなど建物に関する採寸や計算に使われる

玄翁(ゲンノウ)

ノミの叩き込みやくぎ打ちなどに使う

鉋(カンナ)

材木の表面を削り、肌目を美しく仕上げる道具。カンナにもさまざまな種類があり、角を丸く仕上げるものもある



いよいよ手刻みです。人にしか行えない熟練の技術。宮本住建の手刻みは、髪一本の隙間も許されない祭屋台の作成でも培われてきた技術です。

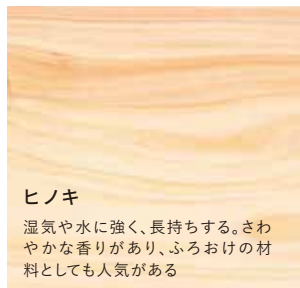


木を薄く削り、表面を美しく仕上げていきます。手刻み同様、大工必須の熟練の技。鉋の使い方一つで腕の良し悪しが判断されることもあるほどです。



すべての手刻みが完了すればいよいよ上棟です。大工の腕の見せ場は手刻みだけではありません。家が完成するまで、大工が心と技術を注ぎこみます。

宮本住建では主にスギとヒノキの2種類の兵庫県産材と、構造計算性に基づき集成材を適材適所に使用し、耐震性に優れた家に仕上げる



ヒノキ

湿気や水に強く、長持ちする。さわやかな香りがあり、ふろおけの材料としても人気がある



スギ

加工しやすく、昔から柱や板など、和室のふすま、障子などの建具に使用されている

Miyamoto Brand 'Mokuzai'

兵庫県産材の無垢材と 集成材を適材適所で 使い分ける

スギ・ヒノキ・集成材はそれぞれ特徴があり、家を建てる上ではいずれも欠かせない素材になります。スギは耐久性・断熱性・吸放湿性に優れ、小梁・床材などに使用されます。ヒノキは防腐・抗菌効果が高く、柱・梁・土台などに適しています。また、集成材は反りや割れが少なく自由な大きさに加工できるため、構造計算と棟梁の経験をプラスして、スギやヒノキでは補えない箇所に使用されます。